さいたま市立桜木中学校　学校だより　　第　２　号　　令和５年４月２８日　発行

さくらぎ

〒330-0854　さいたま市大宮区桜木町４－２１９
ＴＥＬ　０４８－６４１－０４５９
ＦＡＸ　０４８－６４５－４５８４
E-mail　sakuragi-j@saitama-city.ed.jp

学校教育目標「溢れる英知　輝く笑顔」～学習いっぱい　優しさいっぱい　元気いっぱい～

学びて思はざれば則ち罔し。思ひて学ばざれば則ち殆し。

校　長　　清水　一司

「知識の量と思考の力は反比例する」

これは、文学博士でお茶の水女子大学名誉教授でもあった外山滋比古氏の言葉です。「『知識』も『思考の力』も勉強して身に付くものであり、『反比例する』とはどういうことなのか。」と疑問に感じた方は多いと思います。外山氏は、「『知識』が、本当の意味で『考える』ことを難しくしている。なぜならば、知識がある程度まで増えると、知識を利用して問題を処理できるようになる。借り物の知識で問題を解決してしまうからだ。」と語っています。確かに、我々は日常のあらゆる事案を、身に付けている知識だけで片付け、本当の意味で考えることをしていないのかもしれません。私は、外山氏の言葉に、今まで気づかなかったものの見方、考え方に気付かされたとともに、これまで本当の意味で子どもたちに考える力を身に付けさせるような教育をしてきたのだろうかと自問させられました。

また外山氏は著書の中で、知識のみをもつ人、考える力をもつ人を、それぞれ「グライダー」「飛行機」と例えて次のように表現しています。

> グライダーと飛行機は遠くからみると、似ている。空を飛ぶのも同じで、グライダーが音もなく優雅に滑空しているさまは、飛行機よりもむしろ美しいくらいだ。ただ、悲しいかな、自力で飛ぶことができない。（「思考の整理学」　外山　滋比古　著）

つまり、受動的に知識を得るだけの人は、与えられたことをきれいにこなす「グライダー」としては優秀だが、新たなことを考える（自力で飛ぶことができる）「飛行機」としての力は失っていると言っているのです。しかし、考える基盤となる知識は必要です。外山氏も「何事もまねることからしかできないので、グライダーとして優秀であれば基礎を早く習得することができる。」と言っています。

ところで、本号の表題は論語から引用しました。これは「たくさん学習しても、考えなければ、得た知識・知恵を社会でどう発揮すればいいかがわからない。逆に、考えるばかりで、学習しなければ、独善的になってしまう。」という意味です。孔子も、学ぶ（知識を得る）ことと考えることのバランスが大切であると語っていたのです。

「学校はグライダー人間をつくるには適しているが、飛行機人間を育てる努力はほんのすこししかしていない。」外山氏は、学校教育に対してこう指摘しています。

今、学校教育には、学力観、指導観の転換が求められています。本校でも、従前以上に子どもたちに考える力を身に付けさせる教育活動の展開に努めてまいります。